

教員 A による記述

「やさしい日本語」は外国人が日本に適応していく過程で必要である。第 1 の必要性は、災害時の情報提供である。こうした状況では、在日期间が短く、日本語能力が低い外国人も情報を入手する必要がある。「外国人の日本語能力を低く見ている」という批判は的外れである。第 2 の必要性は、日本で生活する外国人およびその子女が日本に定着する過程におけるバイパスとしての機能である。「やさしい日本語」で入門し、その後、さらに複雑な表現の学習を進めることは外国語学習の王道である。「正しい日本語を覚える機会を奪ってしまう」という批判は外国語学習の発達過程を理解していない。ふつう言語権は、少数民族が母語を継承する権利を指すが、「やさしい日本語」との関わりでは、日本国内の外国人生活者が今社会で起きていることをオンタイムで理解する権利と考えられる。日本国内に在住する外国人の数は増えている。「やさしい日本語」は彼らが安全に、平穩に暮らす権利を言語面から支える。

(415文字)